

わが国における『国富論』刊行 200 年 記念行事：補遺

平松系一郎*

前12号において収集記載したスミス『国富論』刊行 200 年記念諸行事の情報について、若干の脱落と編集時以降に現われた該当情報の確認により、補遺を行う必要を感じ、編集委員会のご好意を得て本紙面をお借りする次第である。

なお、採録範囲の趣意および記事構成については前稿の踏襲をお許し願うとともに、新聞記事に関し、前回は省いた諸大学内刊行新聞のそれを、やはり採録すべき資料であるとの認識のもとに採り上げたことについて、とくにご諒承を願いたい。

I 記念講演会

1 学 会

アダム・スミスの会

ミック教授講演会 於山の上ホテル
(東京お茶の水) 1977. 4. 16

New Light on Adam Smith's
Glasgow Lectures. Ronald L.
Meek (University of Leicester)

注—レジュメ有り

経済学史学会

関東部会 於成城大学 1977. 3. 22

Adam Smith and Karl Marx.
Ronald L. Meek (University of
Leicester)

注—レジュメ有り。

注—以上二つは前号〔後記〕に記した
ミック教授の来日中におけるアダ
ム・スミスに関する講演である。

3 そ の 他

雄松堂書店

アダム・スミス「国富論」刊行 200
年記念雄松堂刊ファクシミリ版完成記
念の集い 同書店 於ホテルグランド
パレス (東京飯田橋) 1976. 10. 4 ◆

大河内暁男：スミス「国富論」刊
行 200 年記念ファクシミリ版の刊行
について。

注—当講演は前号 p. 43 右掲載資料
「トッド；……：刊行 200 年記念フ
ァクシミリ版アダム・スミス著『国
富論』の形成とその国際的伝播」第
3 章を内容とするに加えて、同書他
2 著者およびその論文第 1・2 章に
も触れたものである。なお当日には
上記 2 著者(トッド〈Todd, W. B.〉;
カーペンター 〈Carpenter, K. E.〉)
から当版本完成についてメッセージ
が寄せられている。

II 記念展示会

紀伊国屋書店古書部：紀伊国屋書店古

*ひらまつ けいいちろう 関西大学経商資料室

書部特別展示即売会——「アダム・スミスとその周辺」同店同部 37点
1976. 7. 1～14.

注——本会は上記のとおり展示即売会であるが明らかに「国富論」刊行200周年記念と銘打っているこの項目に掲載した。

なお本会はスミスと併せてD・ヒューム没後200周年をも併せ因んでおり、また展示(即売)品数37点は「国富論」初版原本を含むとともに、ヒュームおよびスコットランドの同時代の古書・稀観書より成るものである。

III 出版物

2 関係文献

1) 単行書

星野彰男; 和田重司; 山崎 怜: スミス国富論入門(有斐閣新書). 東京 有斐閣 11, 1977. 246.

小林 昇: 小林昇経済学史著作集 2. 東京 未来社 12, 1976. 453.

2 国富論研究(2)

「国富論」の歴史像と原始蓄積.
217～253.

注——経済学史学会編『『国富論』の成立』第3部のなかの『『国富論』における原始蓄積の把握について』(前号掲載)を改題し各所補訂を施したもの。

講座 経済学史 2. 遊部久蔵; 小林昇; 杉原四郎; 古沢友吉編. 東京 同文館 6, 1976. 245.

2 古典派経済学の形成と発展. 杉原四郎編.

序説 古典学派とはなにか(杉原四郎).

第1部 古典学派の現実的基盤——1760年代から1860年代へ.
15～61.

第1章 はじめに(毛利健三).
15～20.

第2章 スミスとアメリカ革命(毛利健三). 21～28.

第2部 古典学派の確立. 63～229.

第1章 古典学派の体系的基礎——アダム・スミスの政治経済学(和田重司).
63～105.

第2章 古典学派の理論的展開——マルサスとリカード(中村廣治). 106～164.

第3章 古典学派とフランス(吉田静一). 165～198.

第4章 古典学派の思想的変貌——J. S. ミルの経済学(高島光郎). 199～229.

文献案内. 231～236.

人名索引. 237～239.

注——第2章以下もスミスに論及する箇所多し。

水田 洋: 社会思想の旅. 東京 新評論 10, 1975. 372.

NHK大学講座 経済思想——人とその時代(経済学1). 水田 洋; 吉沢芳樹; 小林 昇; 杉原四郎. 東京 日本放送出版協会 4, 1977. 141.
序章 5～14.

第1節 経済学と思想(水田 洋).
5～9. [第1回く4月5日—

以下月日略)

第2節 経済学の展開(杉原四郎).

10~14. [第2回 <4. 12>]

第1章 (水田 洋). 15~45.

第1節 産業革命の前夜. 15~19.

[第3回 <4. 19>]

第2節 最初の経済学者. 20~24.

[第4回 <4. 26>]

第3節 利己心と同感——「道徳

感情論」. 25~29. [第5回

<5. 3>]

第4節 富裕の原因——「国富論」.

30~34. [第6回 <5. 10>]

第5節 独占の弊害——「国富論」.

35~39. [第7回 <5. 17>]

第6節 市民社会の課題. 40~45.

[第8回 <5. 24>]

注——本講座はNHK教育テレビにおいて1977年4~9月にかけて毎週火曜日午前6時30分~7時30分および再放送同日午後11時30分~午前0時に放送されたもので、当該市販テキストをここに出版物として採録した。[]内は放送回数および月日を示す。なおスミスについては上記以後の放送でも屢々触れられている。

Nishikawa, Kiyoharu (西川清治): Fiscal theory of Adam Smith; in commemoration of the Bicentenary, Osaka, Kansai Book Store (Hannan Univ. Research series, No. 6) [1977] 158 p.

岡田純一: アダム・スミス (経済学者と現代1). 東京 日本経済新聞社 9, 1977. 184.

注——昭和51年度・52年度文部省科学研究費補助による「アダム・スミスとフランス古典経済学」と題する研究の一部。

スキナー (Skinner, Andrew S.): ア

ダム・スミス社会科学体系序説. 川島信義; 小柳公洋; 関 源太郎訳. 東京 未来社 6, 1977. 217.

注——はしがきに原著者の「日本語版へのまえがき」有り。

杉原四郎; 鶴田満彦; 菱山 泉; 松浦保: 古典学派の経済思想——経済思想史 1 (有斐閣新書). 東京 有斐閣 4, 1977. 236.

1 近代的経済思想の形成——アダム・スミスへの道(浜林正夫). 1~47.

2 国富論の理論と思想——経済学の生誕(羽鳥卓也). 49~112.

3 産業革命と経済思想——リカードゥとマルサス(橋本比登志). 113~170.

4 古典派経済思想の変容——J. S. ミルとその時代(杉原四郎). 172~220.

注——3以下はスミスそのものに触れた箇所は極少。

和田重司: アダム・スミスの政治経済学. 京都 ミネルヴァ書房 2, 1978. 355.

第2部第5章 日本におけるスミス市民社会論史をめぐって. 317~339.

注——高島善哉; 水田 洋; 和田重司; 田中正司; 星野彰男; 伊坂市助: 「アダム・スミスと現代 同文館1977刊」に掲載した論文。

2) 雑誌

アレシナ (Алещина, И): アダム・スミスの学説と現代資本主義——推論

の基本線・アダム・スミスの遺産の俗流化——アダム・スミス「諸国民の富」刊行200年。国際関係研究所訳編。世界経済と国際関係（ソ連科学アカデミー，世界経済・国際関係研究所）(36)，170～186（3，1977）

橋本昭一：スミスとヒューム，スミスと「みえざる手」，スミスの放心癖，スミスとアメリカ独立宣言。あしぶえ（関大）(7)，110～113（1，1978）
[1976. 10. <5, 8, 7, 4>]

注——ラジオ関西において「今晚はみなさん」の番組名で，1976年4月1日～1977年3月31日（日曜日を除く）にかけて午後11時30分から5分間放送されたものを内容とし，これを一括した。〔 〕内は放送年月日を示す。

戒田郁夫：アダム・スミスの教訓。あしぶえ（関大）(7)，26（1，1978）
[1976. 8. 6]

注——上記アイテム注参照。

経済学史学会：

全国大会 第40回 1976. 11. 6～7.

報告および討論「国富論における富裕と安全（報告要旨：小柳公洋；討論要旨：杉山忠平），アダム・スミスにおける衡平の原理（報告要旨：星野彰男；討論要旨：木村正身），日本におけるスミス市民社会論史をめぐって（報告要旨：和田重司；討論要旨：羽鳥卓也），トマス・ジェファソンの経済思想とアダム・スミス（報告要旨：白井厚；討論要旨：田中敏弘）

シンポジウム アダム・スミスと

われわれ 市民社会と小集団——民主主義の問題（問題提起：水田洋；討論要旨：羽鳥卓也）。アダム・スミス体系における country と market（問題提起：玉野井芳郎；討論要旨：羽鳥卓也）

関東部会 1977. 3. 22.

報告（上野格）

注——R. L. Meek 氏の講演 Adam Smith and Karl Marx に触れたもの。

経済学史学会年報（15），83～94（11，1977）

経済学は現代を救えるか——「国富論」200年——経済学の系譜と課題：

てい談 いま経済学が問われているもの（大河内一男；安井琢磨；小林昇）

アダム・スミスの独白——私は誤解されている（水田洋）。エコノミスト臨時増刊 53（49）44～63（10，11，1975）

「国富論」刊行200年特集：発刊のことは（経済資料協会出版委員会），スミス研究の動向——日本のスミス研究（杉原四郎），同——海外のスミス研究（水田洋），アダム・スミス書誌解説（杉本俊朗），「国富論」刊行200年記念行事一覧——わが国における「国富論」刊行200年記念行事（平松系一郎），同——「国富論」刊行200年記念論文〈外国〉一覧（細川元雄）。経済資料研究（12），1～54（8，1977）

松川七郎：アダム・スミスの社会的立場に関する問題によせて。商学論纂（中央大）19（1），1～29（5，1977）

注——中央大学商学部松川七郎教授最終講義（1976.12.22）を基礎にして再現，若干の加筆訂正を行なったもの。

水田 洋：ウィルソン，スキナー共編「市場と国家——『国富論』出版二百年記念論文集」〔書評〕。学燈74（9），60～61（9，1977）

中谷武雄：アダム・スミスの国家論——国家権力の形成過程の分析を中心に。経済科学通信（18），23～30（4，1977）

注——経済論叢（京大）118（3/4）掲載の同一標題（ただし副標題は「国家権力の形成過程の論理と歴史を中心に」とあり）の論文をもとにして，日本財政学会第33回大会において発表したもの。

西川清治：Fiscal theory of Adam Smith の要旨と若干の補足。阪南論集 13（1），1～12（8，1977）

西川清治：Supplementary remarks on wealth in A. Smith and national income in C. Marx. 阪南論集 13（2），23～38（9，1977）

注——内容英文。

岡本祐次：アダム・スミス「国富論」刊行200周年記念行事資料抄。三重法経（38），87～138（10，1977）

嶋 啓；伊井賢二：スミスとマルクス——R. ミーク教授の報告要旨。海外事情研究（熊本商大）5（2），69～70（12，1977）

注——上記報告は1977年3月28日於熊本商科大学「A. スミスとK. マルクス」を指す。

鈴木 亮；天羽康夫：アダム・スミス研究の現状。経済学史学会年報（15），2～17（11，1977）

タール（Thal, Peter）：アダム・スミス著「諸国民の富」——経済学説形成の学説論争二百年。津波古充文訳。大阪産業大学論集〈社会科学編〉（45），35～41（1，1977）

和田重司：A. S. Skinner & T. Wilson, ed., Essays on Adam Smith に寄せて。経済研究（一橋大）28（1），89～92（1，1977）

山崎 怜：第10回国際政治学会スミス部会。経済学史学会年報（15），20（11，1977）

山崎 怜：「国富論」二百年ハレ会議。経済学史学会年報（15），18～19（11，1977）

八幡清文：A. スキナー，T. ウィルソン共編「アダム・スミスに関する論文集」〔書評〕。学燈73（7），64（7，1976）

吉田昇三：スミスにおける経済学と社会学（2）。商経学叢（近畿大）（57），1～16（9，1977）

注——当論文（1）は同雑誌（56）「アダム・スミス「国富論」刊行200年祭」のなかの一論文として本誌前12号p. 45に掲載されてあるもの。

吉原直樹：アダム・スミスにおける都市の問題——M. ウェーバーからK. マルクスへの連結環として。都市問

題研究28 (6), 82~106 (6, 1976)

3) 新聞記事

アダム・スミス「国富論」発刊二百年記念講演会〔紹介記事〕. 南山 (南山大) (36), 7 (6, 1, 1977)

アダム・スミス「国富論」刊行 200 年によせて: アダム・スミスを想う (武田正二), 産業革命思想と A・スミス (亀山 潔). 国士館大学新聞 (165), 4 (27, 10, 1976)

注——同新聞編集部の解説欄有り.

船越経三: 「スミス諸国民の富『国富論』」. 神奈川大学通信(104), 16 (15, 12, 1975)

橋本昭一: 「国富論」200年——「国富論」を超える経済学は可能か. 関西大学通信 (67), 4 (16, 9, 1976)

国富論 200 年——アダム・スミスを語る (上・下) (座談会): 大内 力; 小林 昇; 関口尚志. 週刊東京大学新聞 (2194) 1~2 (2, 8, 1976); (2195), 6 (6, 9, 1976)

水上健造: 「アダム・スミスとその時代」の刊行に寄せて. 和光大学通信 (28), 1~2 (20, 1, 1978)

篠原 久: 「国富論」刊行二百年記念シンポジウムに参加して. 関学ジャーナル (2), 3 (25, 5, 1976)

高瀬 浄: 「国富論」刊行二百年. 大東文化新聞 (大東文化大) (275), 4 (15, 4, 1976)

内田 弘: 高島善哉; 水田 洋; 和田重司; 田中正司; 星野彰男; 伊坂市助著「アダム・スミスと現代」——

日本における今日の水準——望みうる最高のスミス入門書の一冊〔書評〕. 日本読書新聞 6 (8, 8, 1977)

〔後記〕

- 1 前稿終りに1977年中に出版予定として紹介した2点は、現在編集および執筆中ときく。予定としてではあるが期日を限定したのは編者の誤りとしてお詫び申し上げたい。
- 2 阪南大学において、「国富論」発刊 200 年を記念して、「アダム・スミス祭」の名のもとに、公開講演会および特集号他出版等を盛大に行われたことは、前号記事として採録したところであるが、当「アダム・スミス祭」の計画・挙行・終了の諸情報が同大学図書館編集発行の「阪南大学図書館タイムズ」No. 7 (6, 1976), No. 8 (10, 1976), No. 10 (1, 1977) にそれぞれ掲載されていることをここに一括しておく。

注——上記雑誌9(11, 1976) は、当該特集号に該当するものであるが(前号44~45) 同誌を「アダム・スミス『国富論』発行 200 年……」としてあるのは「発刊200年……」の誤り、また「……図書館タイムズ」とあるのは「……図書館タイムズ」の誤りである。

- 3 当補遺により前稿使用符号を溯って前号記事に付すべき箇所 (p. 38 右上から17行目末尾に◆) が生じた。
- 4 前号記事において相当箇所の不備を発見したが、とくに研究者名「羽鳥卓也」先生を2箇所 (p. 43 左と

p. 46 左) にわたり「羽島〈誤〉」, 「浜林正夫」先生を1箇所(p. 48右)「浜村〈誤〉」とし, また論題名「『国富論』刊行200周年と学界」を2箇所(p. 46 左と p. 50 右)にわたり「——学会〈誤〉」, 「スミス愛からくる読みこみがめだつ」(p. 49 右)を「……からくる書読みこみ……〈誤〉」, 「日本におけるスミス市民社会論史をめぐって」(p. 50)を「……スミス市民社会論文を……〈誤〉」として, 多大の迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げたい。

5 終りにスキナー教授 (Skinner, Andrew S. <グラスゴー大学>)の来日に触れておきたい。日程は, 3月24日来日, 次のとおりの諸講演を行い, 4月中旬帰国された。なおこの詳細なる情報は, 各主催機関と共に, かつ全期間を通じて当該行事を主担される関西学院大学田中敏弘教授のご教示によるものである。

○経済学史学会西南部会 於西南学院大学経済学部 1978. 3. 28

Adam Smith: An economic interpretation of social history?
Andrew S. Skinner (University of Glasgow [以下略])

○経済学史学会関西西部会大会 於関西学院大学経済学部 1978. 4. 3

Adam Smith: The function of government.

○日本イギリス哲学会大会 於仏教大学 1978. 4. 5

Science and the role of the imagination.

○神戸大学経済学部 於同大学同部 1978. 4. 7

Moral philosophy and civil society.

○名古屋大学経済学部 於同大学同部 1978. 4. 10

Moral philosophy and civil society.

○中央大学経済研究所 於同大学会館 1978. 4. 12

Adam Smith: An aspect of modern economics.

○アダム・スミスの会 於国際文化会館(東京) 1978. 4. 14

Adam Smith: An economic interpretation of social history?
〔とくに追補として〕

I 記念講演会

2 大学

熊本商科大学

ミーグ教授講演会 於同大学 1977. 3. 28 ◆ p. 76.

Adam Smith and K. Marx.

III 出版物

2 関係文献

2) 雑誌

スキナー (Skinner, A. S.): アダム・スミス——現代経済学の一側面.
'Adam Smith: An aspect of modern economics' 田中敏弘; 篠原 久訳.
経済評論27(8), 70~90 (8, 1978)

注——上記中央大学経済研究所における講演の記事化。

アダム・スミスへの案内：スミス研究の軌跡（水田 洋），スミスの思想——ヒュームとの関係（星野彰男），スミスの経済観（羽鳥卓也），「安価な政府」のことなど——スミス国家論によせて（山崎 怜）．書齋の窓（277），2～23（9，1978）

予約受付中（53年9月末刊行）
マノジメント関係資料調査の必携書！

経営管理 研究 文献要覧

一九六八—一九七七

産業能率短期大学図書館編・日外アソシエーツ発行

B5判・上製本・約七〇〇頁・定価一八、〇〇〇円

■本書は（経営管理・マーケティング・営業管理・財務・簿記・会計・人事管理・生産管理・調達管理・企業等）に関する雑誌記事約二万点、図書約二、〇〇〇冊を集大成したものです。

■最近一〇年間の情報源が即座に調査できます。

■関連研究者の方々は、図書館、調査部、資料部等において大変役立つものとお奨めいたします。

産業情報総覧

日本開発銀行編 B5判・クロス
上製本函入り・九五〇頁・定価二七、〇〇〇円

日本統計索引

日本統計索引・補遺

日本統計索引編集委員会
河島研究事務所編

国別・地域別編
A4・四頁・クロス上製本 定価 ¥七〇〇〇
(セツト価格 ¥二、〇〇〇)

統計利用ガイドブック

河島 正光著 A5判・上製本・五〇〇頁
定価四、八〇〇円

医療・保健・環境統計索引

統計索引編集委員会・B5判・上製本三〇〇頁
定価九、八〇〇円

ご注文・お問い合せは

東京都大田区大森北一―三十八第3下川ビル143

TEL 〇三（七六三）五二四一（代）

郵便振替・東京 〇一四七九七一

●出版 日外アソシエーツ

郵便振替・東京 〇一四七九七一